



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久 (APIR 研究統括)

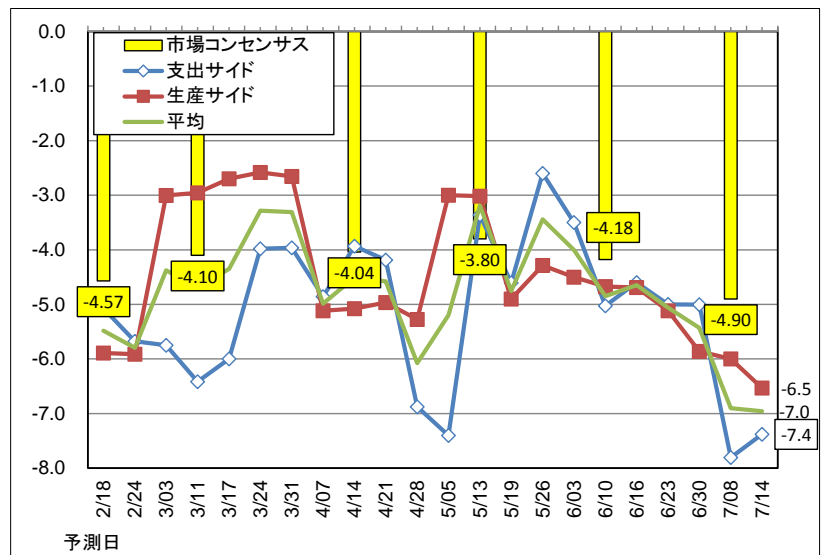
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail: inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2014年7月14日)

## ポイント

- ▶今回予測で更新されたデータは、6月の国内企業物価指数、輸出入物価指数、5月の情報サービス業売上高、第3次産業活動指数、機械受注統計及び国際収支状況である。
- ▶これらは、民間企業設備、政府最終消費支出、純輸出及び輸出入デフレタの予測値に影響を与える。
- ▶5月のコア機械受注は前月比-19.5%大幅減少し事前予測を大幅下回った。一方、5月の情報サービス業売上高は前月比+0.7%上昇し事前予測を上回った。結果、4-6月期の実質民間企業設備の予測値は先週から横ばい。
- ▶5月の公務等活動指数は3カ月連続の前月比マイナス。結果、4-6月期の実質政府最終消費支出の予測値は先週から下方修正。
- ▶6月の輸出入物価指数はいずれも事前予測を上回った。結果、実質財貨・サービス輸出入の予測値は下方修正されたが、輸入の予測修正幅が輸出のそれを上回ったため、4-6月期の実質純輸出の予測値は先週から上方修正。
- ▶今週(7/14)の超短期モデル(支出サイド)は、4-6月期の実質GDP成長率を前期比年率-7.4%と予測。先週の予測(-7.8%)から小幅の下方修正。4-6月期は民間需要、公的需要ともに前期比減少だが、純輸出が幾分GDPを押し上げている。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2014年4-6月期(%, 前期比年率換算)



### <4-6月期、民間需要、公的需要ともに前期比減少だが、純輸出はGDPを幾分押し上げ>

今回予測で更新されたデータは、6月の国内企業物価指数、輸出入物価指数、5月の情報サービス業売上高、第3次産業活動指数、機械受注統計及び国際収支状況である。これらは、民間企業設備、政府最終消費支出、純輸出及び輸出入デフレタの予測値に影響を与える。

5月のコア機械受注は前月比-19.5%大幅減少した。2カ月連続のマイナス。4-5月平均は1-3月平均比-9.5%となり、4-6月期の前期比見通し(+0.4%)から大きく下振れている。5月実績は事前予測を大幅下回った。一方、5月の情報サービス業売上高は前月比+0.7%上昇し、事前予測を上回った。結果、4-6月期の実質民間企業設備の予測値は先週からほぼ横ばいとなった(前期比-0.7%→同-0.7%)。

5月の公務等活動指数は前月比-0.6%低下し3カ月連続のマイナス。実績値は事前予測を下回った。結果、4-6月期の実質政府最終消費支出の予測値は先週から下方修正された(前期比+0.2%→同+0.0%)。

6月の輸出入物価指数が更新された。実績はいずれも事前予測値を上回った。結果、実質財貨・サービス輸出の予測値(前期比+1.3%→+0.8%)と同輸入の予測値(同-2.6%→-4.0%)はいずれも下方修正されたが、輸入の予測修正幅が輸出のそれを上回ったため、4-6月期の実質純輸出の予測値は先週から上方修正された(8.700兆円→9.466兆円)。

今週の支出サイドモデルは、4-6月期の実質GDP成長率を前期比-1.9%、同年率-7.4%と予測。先週の予測(-7.8%)から小幅の上方修正。4-6月期は純輸出(前期比+0.8%)が拡大に転じるが、内需が駆け込み需要の反動で大きく縮小(前期比-2.7%)する。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690